

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科農業土木プログラム
平成17年度第2回外部委員会（教育目標評価委員会・教育システム改善委員会）
合同会議 記録（案）

日時：平成17年12月17日（土）15：00～17：00

場所：農学生命科学部445室

出席者：[外部委員] 山形, 笹森, 櫻田(隆), 桜田(清)

[プログラム教官] 万木, 工藤, 泉, 角野, 加藤, 高橋(照), 藤崎

進行：工藤

記録：藤崎

前回の記録の確認

メールにて確認済み

議題

議事に先立ち、実地審査総括報告書などに基づき、実施審査とそれ以降の対応について説明がなされ、審査の流れについての質疑があった。

- ・11月13～15日の実地審査の際、審査チームからプログラム点検書（その2）と判定されたので、実地審査後2週間以内にこちらから追加説明書を送付した。これに対し実地審査後4週間以内に1次審査報告書が届いたが内容に変化はなかったので、実地審査7週間以内の年内に改善報告書と異議申立書を送付する予定である。
 - ・審査結果の評語はA適合、C懸念、W弱点、D欠点の英単語の頭文字であり、今回の審査結果は、他大学と比べてどの程度かは不明だが、こちらの努力が比較的認められたと考えられる。
 - ・今回の審査チームの審査報告に基づき、JABEE全体での調整を経て最終判定となるが、その間、こちら側はただ結果を待つだけである。
 - ・2005年度(2006.3.)卒業生から認定になる予定だが最終判定が出るのは5月頃で、卒業時の認定証の交付は不可能である。
 - ・2年間の認定となれば、2007年秋に中間審査が別の審査チームにより行われる。
 - ・Wはもちろんのこと、Cの項目も含めて、継続した改善への努力が求められている。
- といったJABEEの審査について、ISOと似ているとの意見もあり、理解を深めた。

また、追加説明書等について、誤字脱字の指摘を受けたので、改善報告書、異議申立書の提出の際には、十分注意することとした。

（1）教育目標評価委員会

教育目標について、「伝統及び資源」の指摘を受けているので、次年度、卒業生などへの調査を含め、さらに検討していく旨、了承された。

また、達成度の評価手法に関して、平均点で良以上を求めていることと可で卒業できる学則との間に不整合があることについて、1)平均が良であるので、一部の科目で可を取得することは問題なく、全ての学生が平均点で良以上となるように半年ごとにシミュレーションを用いた学習指導を行っていること、2)プログラム移動も認めるようにしたこと、3)

J A B E Eで平均点が良以上という修了要件を、平成18年度以降の学生便覧に明記する予定であること、について了承された。

編入学生の評価について、専門科目については逐一シラバスを対比して補習を行い認定しているつもりであったが、そのやり方に甘いところがあったのかもしれない、21世紀科目については一括認定というシステムとなっているので、今後、どう対応すべきか検討していく旨、了承された。

(2) 教育システム改善委員会

教育システム全般のあり方について、教育褒賞選考委員会を組み込んだ教育システム点検図が示され、了承された。さらに、J A B E Eで教養科目についても詳しく見るようになってきているので、今後、21世紀教育の委員会やプログラム教員以外の教員との連携を深めていくことが了承された。

審査では高く評価された授業評価について、2005年度前期分について問題視すべき授業はないことが示され了承された。また、今後、演習や実習、プログラム教員以外の教員が担当する授業について、どういう方策が考えられるのか、検討していくことが了承された。

在校生の学習達成状況について、全般に学年が進むにつれ成績が向上する傾向にあることが示され、了解された。また、学生の技術士補資格取得意欲に応えるよう、社会の側が技術士をきちんと評価するよう努力する必要があるとの意見も出された。

審査報告に、実務者との交流をさらに深めるように指摘されていることについて、「さらに」がどの程度なのか不明だが、今後とも、各種のフォーラムや研究会などに学生の参加を勧めたり、最新の測量機器やCADソフトなどを体験させる機会を増やすなど、前向きに取り組んでいく旨、了承された。

教育設備の改善についての指摘についても、毎年、見直しをきちんと行い、予算要求を努力していく旨、了承された。

その他

次回日程について、5月の連休明けくらいに開催する見通し。

定常的になれば、年1回の開催で十分ではないかと考えている。